

ニュージーランド準備銀行は新体制下で金利据え置き

- ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は、エイドリアン・オア新総裁就任後の初会合で政策金利の据え置きを決定。
- オア新総裁は雇用最大化と物価安定の維持のため、緩和的な政策金利水準を相当な期間維持する方針を示す。
- RBNZはインフレ率が20年末に2%へ回復すると予想し、政策金利は20年以降の緩やかな引き上げを見込む。
- ニュージーランドの経済成長と雇用は堅調を維持。RBNZは20年に向け潜在成長率を上回る経済成長を予想。

RBNZは政策金利の据え置きを決定

ニュージーランド準備銀行(RBNZ)は5月10日、大方の市場予想通り、政策金利を1.75%で据え置く決定を下しました(図1)。政策金利据え置きは10回連続となります。

エイドリアン・オア新総裁にとって初会合の声明文では、「現状の緩和的な政策金利の水準は相当な期間にわたって維持されるだろう。持続可能な雇用の最大化と低水準で安定したインフレ率を維持するため、これが我々ができる最大の貢献である。」と述べ、中立的な金融政策を維持する姿勢を示唆しました。

RBNZは2018年3月、労働党新政権下での新たな政策目標協定(PTA)の中で、中央銀行の責務に「持続可能な雇用の最大化」を加えたことを公表していました。

RBNZはインフレ率が20年末に2%へ回復と予想

今回、RBNZの「金融政策報告(2018年5月)」で示された経済見通しによれば、2018年1-3月に前年比+1.1%へ低下した消費者物価指数(CPI)上昇率は、2020年末にインフレ・ターゲットの中心の2%へ緩やかに持ち直すと予想されています(図1)。足元の物価の下振れの背景として、オア総裁は食品と輸入品の価格抑制および賃金上昇圧力の弱さを指摘しています。

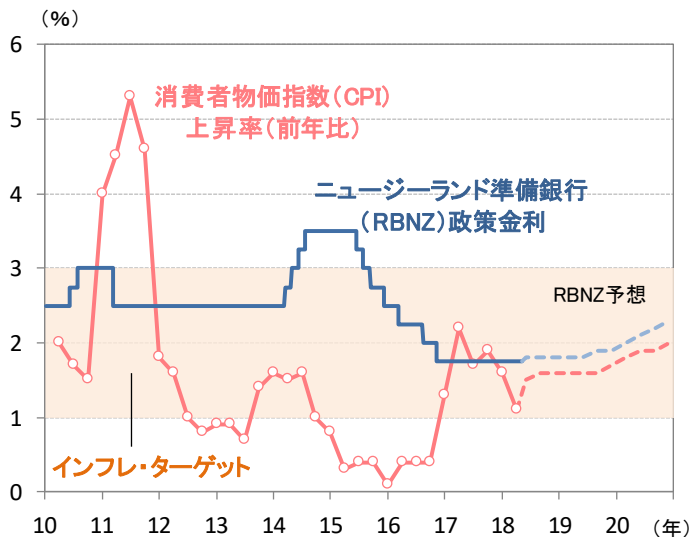
また、インフレ率の上昇に呼応して、政策金利は2020年以降、緩やかな上昇基調に転じると見込まれています。

ニュージーランド経済は底堅い成長が続く見込み

一方、景気判断に関しては、オア総裁は「ニュージーランドの経済成長と雇用は引き続き堅調であり、持続可能な水準に近い」との見方を示しました。

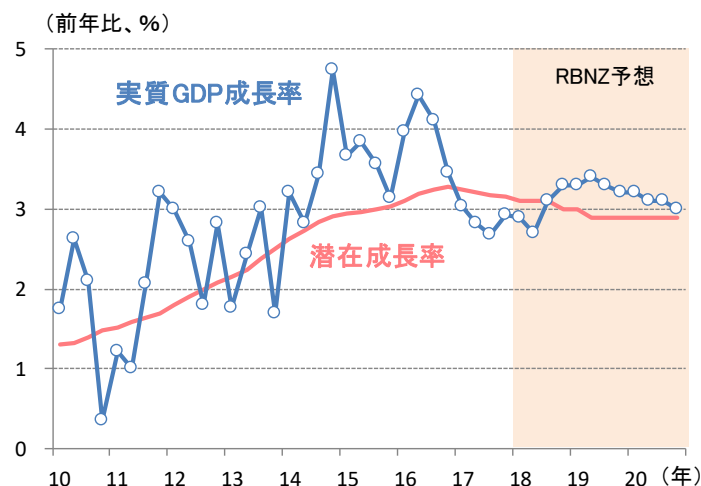
RBNZによれば、緩和的な財政・金融政策に下支えされ、ニュージーランドの実質GDPは、2018年が平均3.0%、2019年が3.3%、2020年が3.1%と潜在成長率を上回る底堅い成長が続くと予想されています(図2)。

図1:ニュージーランドの政策金利とインフレ率



(出所)ニュージーランド準備銀行(RBNZ)、ニュージーランド統計局
(期間)政策金利: 2010年1月5日~2018年5月10日
CPI: 2010年1-3月期~2018年1-3月期

図2:ニュージーランドの実質GDP成長率



(出所)RBNZ、ニュージーランド統計局
(期間)2010年1-3月期~2017年10-12月期